

例文から適切な文章

英作文支援システム 企業と開発

利用頻度参考に推論

徳島大の任教授グループ

徳島大学工学部の任福継教授のグループは二十六日、人工知能技術を応用した英作文支援システムを企業と共同開発した、と発表した。日本語を英文に自動的に変換していく従来のシステムとは違い、打ち込んだ日本語の文章の中からキーワードを探し、百万にも上る英語の例文のデータベースから適切な文章を抽出する新しい仕組み。来年三月にもパソコンソフトにして販売する予定で、正確に英作文ができる初のソフトとして注目されそうだ。



新方式の英作文支援システムについて説明する任教授＝徳島大学工学部

システムは、二千の基本文章と百万の例文をデータベース化。日本語で文章を打ち込むと、いくつかのキーワードを基に例文を表示する。例文の種類には「ビジネスレター」「あいさつ」「論文」などの分類があり、例えば「ビジネスレター」は、「問い合わせ」「支払いの催促」などに枝分かれする。さらに「問い合わせ」も十四項目に分かれ、より具体的な例文が提示される。使用者は例文中の必要な箇所を書き換えれば

よい。例文のデータ量は多いが、過去の利用頻度などを参考に使用者が求める例文を推論する方法を開発したことにより短時間で検索できるといふ。任教授は「従来のシステムでは外国人に理解できない英文になるなど、翻訳が不十分だった。日本から情報発信するには正確な英作文が欠かせない」と話している。開発には任教授が参加してつくったベンチャー企業AIA国際高度情報化研究所(徳島市)、大学の技術の民間移行を行うテクノネットワーク四国(高松市)、ソフト開発のエイ・シー・アイ(東京都港区)が協力。今後、企業向けのソフトを開発し販売する方針。価格は十万円以下にするという。